

令和6年度第1回ピースツーリズム推進懇談会 会議要旨

1 開催日時

令和6年9月9日（月）14時00分から16時15分

2 会場

広島市役所本庁舎14階第7会議室

3 出席者

懇談会構成員

団体名・役職	氏名
被爆体験証言者（平和記念資料館元館長、元国際平和担当理事）	原田 浩【座長】
広島市立大学広島平和研究所 所長	大芝 亮
広島大学平和センター 准教授	ファン デル ドゥース 瑠璃
特定非営利活動法人 ANT-Hiroshima 理事長	渡部 朋子
一般社団法人日本旅行業協会中四国事務局 事務局長	橋村 秀樹
一般社団法人ひろしま通訳・ガイド協会 会長	畝崎 雅子
広島市市民局国際平和推進部 部長	山藤 貞浩
広島市経済観光局観光政策部 部長	中田 忠

（計8名、欠席1名）

事務局

広島市経済観光局観光政策部 観光プロモーション担当課長、主任、主査（計3名）

4 議題

- (1) 令和6年度上期の取組
- (2) 令和6年度下期の取組（予定）
- (3) その他平和に関わる本市の事業についての情報共有

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴人の人数

0名

7 会議資料名

資料 ピースツーリズム推進懇談会（令和6年度第1回）

8 発言の要旨

【令和6年度上期の取組、令和6年度下期の取組（予定）について事務局から説明】

（渡部委員）

WEBサイト等による情報発信について、旅行者以外の人達、例えばテレビ局など旅行代理店以外の人達で観光事業を始める人が増えているが、そういう人達へピースツーリズムの情報が届いておらず、全然御存知ないことがあった。従来の旅行者にだけ情報が行っているのではないか。新たに観光事業に参入している方が多くいることを実感したので、ぜひそういった人達に当たってみてほしい。

フォトコンテストでのエディオンピースウイング広島や長崎など、様々なところと連携するのは非常に良いことだが、カープやドラゴンフライズなども連携先として考えられるのではないか。スポーツ以外にも、音楽では広島交響楽団、アートでは現代美術館やひろしま美術館などとの連携も考えてみてはどうか。また、フォトコンテストも定着し、多くの方が応募してくださるので、広島市内にある大型スクリーンや駅の待合室等で、入賞作品を見ていただく機会があれば良いと思う。

それから、海外の大学生への情報発信に関連して、昨年設立された「ユース非核リーダー基金」のプログラムで、今年、長崎広島を訪問したユースにより「DeclarACTION」という提言がなされた。その中で、「海外の学生が英語で包括的に広島の前爆被害を学ぶためのきちんとした場所がない」ということが挙がっており、これは問題だと思った。長年、広島・長崎講座や大学での講義も行われてきたが、それらのカリキュラムでは深く突っ込んでいない。ある程度の知識を持って学んできた学生は、より深く英語で学べる機会を待っていると実感したので、それを皆で作っていくことができればありがたい。それをどこの部署でやるのか分からないが、ピースツーリズムで発信することはあると思う。

最後に、PR 動画のタイトルが「私が見ている景色は世界が見ていた景色だ。」だが、この「世界」というのはG7の首脳のことか。

（事務局）

首脳や配偶者、それから海外から来られたマスコミの方や報道を視聴した方々なども含まれると思う。

（渡部委員）

世界の偏った一勢力に焦点が当たっており、全世界に向けてアピールするなら、G7という非常に小さい枠の中の人達だけをターゲットにして「世界が見ていた景色」というのは、広島の発信としては良くないと思う。

（畝崎委員）

国内ジャーナリスト研修は良い取組だ。参加者10名の内、下野新聞が記事化してくれたのはありがたい。この事業については、定期的に広島はこうした機会を持っていると伝えたいし、来広経費は負担してもらおうとしても、例えば英語圏の方にも行うなど、ジャーナリストが国内外に広島について発信する機会が非常に重要だ。そのため、今回の海外の大学生への情報発信の取組は素晴らしいと思う。

（大芝委員）

今回の報告を聞き、今までも継続してきたことだと思うが、人との接触が目立つ印象を受けた。例えば、ジャーナリスト研修や、海外の大学生が和歌山大学の学生と一緒に来られたなど、人とのコミュニケーションを取っていくような企画が非常に大事だと思う。

ジャーナリスト研修の参加者が10名だが、最近の参加者の人数はどれくらいか。いつも10名ぐらいだったのか。昔はもう少し多かった印象がある。

また、海外の大学生への情報発信は海外の学生に焦点を当てていることはわかるが、和歌山大学の学生が4名なので、もう少し来てほしかった。なぜかという、広島以外の国内の学生はどうなっているか気になっており、その辺りも人数を見ながら、必要があればターゲットとしてコンタクトしていくのも良いと思う。比治山大学の取組はとても良いことだ。

(橋村委員)

渡部委員が言われたのは、地域限定旅行業を持っている方や、ランオペという旅行業代理業の資格は取りやすいので、今そういう方が増えている。インバウンド観光客が増えているので、例えば観光地で土産屋をやっている方々は少し案内ができるし、周遊コース等も海外の方に案内ができる。ここにあるいろいろなモデルルートは、そういう人達からも情報を取っていただいて、実際に海外から来られる欧米豪やアジアの方から直接声を聞いているので、そういうものをWEBサイトに載せていくと、また新たな目線で面白いものができると思う。より情報を豊かにする、海外からの目線でモデルコースを作ったり紹介したりすることによって、日本人だけではなく海外の方が興味を持って来られる。最近、平和記念公園でインドの団体をよく目にすると思うが、事前に勉強して来られるので、質問内容が通常の欧米豪の人達と違う。今どンドンいろいろな国の方が来ている中で、こういう強化も必要になってくると思う。

それから、フォトコンテストを令和2年度から開催しているが、応募される方の年代層が分かれば教えてほしい。若い方が多いのか、それとも年配の方が多いのか。

それと、海外への情報発信は先程言われたとおり、先進国だけでなく、アジアやいろいろな国の方々に発信することによって、この平和というのがすごく大切な部分もある。3日くらい前にニュースでやっていたが、長崎が、イスラエルとガザの学生を長崎で会わせて、話し合いをするということをやっている。そういう部分は、これから先、広島が平和を訴えるに当たって絶対必要な部分だと思う。深くやりすぎると政治絡みになるので厳しい部分もあると思うが、そういうものを平和都市で開催して、実際に今ウクライナもそうだが、いろいろな戦争が起こっている。その人達に平和の大切さを、ここに来て直に話をさせていただくことも大切ではないか。すぐというわけにはいかないと思うので、徐々に世界各国に広げてほしい。

それから、リーフレットの更新について、実際に来られた外国の方は携帯を見て動かれることが多いので、例えばQRコード等にして携帯をかざすと、このガイドマップが全て見られる方が伝わりやすいのではと感じた。

それと、ピースパズルの参加者数と参加者の年代についても教えてほしい。

(瑠璃委員)

ピースツーリズムに関する情報発信が充実してきて、しかも継続的に行われているのは素晴らしい。確実にアクセス数等が増えて、成果も上がってきたと感じている。特に、広島、長崎の両市を一緒にした観光キャンペーンを始めたということで、これはぜひ国内外で展開していただければと思う。その際、ただ漠然と両市が被爆地だから訪れるというよりも、どんな比較ができるかとか、知れば知るほど、それぞれの特殊性を理解し、当事者感や、馴染みが深まる工夫があると良い。例えば、両市で異なる社会背景や地形、投下された爆弾の仕組みについてより深く知ることができるとか、炸裂時の地形や気象に

よって被爆の実相が異なることなど、平和の学びも含めた観光キャンペーンが望ましい。同時に、食文化や宗教の違いなど歴史文化的な背景と一緒に発信していけば、深掘りが面白くなり、さらにリピーターも増えるのではないかな。

それで、まだやはり「点」としての観光という傾向が強いと少し心配している。原田座長が昔から、「点から線へ、線から面へ」といった形で展開する必要性を説いてこられたが、これは観光学においては**回遊性**と言う。ある地点から次の地点への関連性があり、その関連性を自分で探したり経路したりすることで、移動すればするほど、「もっと知りたい、やってみたい」、「自分が行って新たな情報を掘り起こしたい」となる。「さらに知りたい、人に知らせたい」とリピート数が増えていくので、そういった仕掛けをどんどんこれから作っていききたいものである。

情報発信という点について広島は強いが、情報発信で終わらず、相手に響かせ、響いた人をどんどん巻き込んでいくという仕組みを作ると良い。令和6年度上期の取組では、フォトコンテストやジャーナリスト研修、「ピースおこ」プロジェクトや市内大学との連携がその好例だ。

質問だが、国内ジャーナリスト研修に来た方たちから、「こういう発信があった」とピースツーリズムのWEBサイトに上げているか。いろいろなところでピースツーリズムについて何が発信されたかというのを、例えば学生アルバイトを使ってWEBサイトに載せていけば、相互発信、相互広報になり、さらに情報が広がる。また、「国外」ジャーナリスト研修はあるか。あるとすれば、どのような内容か。

今後も情報発信をする中で、特に海外に発信すると必ず質問が来る。質問に対応する機能やシステムの準備はあるか。もしないのであれば、例えば広島大学や広島市立大学、他の大学にも留学生がたくさんおり、特に博士課程や修士課程後期の中には、かなり原爆について学んでいる人もいる。こういう人達を起用して、質問に英語で対処するシステムを作ることにも可能だと思った。

(山藤委員)

今年度、WEBサイトのアクセス数が1.7倍とかなり増えており、今までのいろいろな積み重ねの成果が出ていると思う。

昨年からの指摘のあった平和記念資料館の混雑対策について、昨年度は2時間待ちといった状況で、あれから1年間いろいろな取組をやってきた。今年の平和記念資料館の入館者は、前年度比の8月末で1.16倍。原爆死没者追悼平和祈念館の入館者数も増えており、前年度比8月末で1.22倍。大体2割ぐらい増えており、昨年約200万人だったので、今年はそれを超えることになるだろう。

去年は入館待ちの行列があったが、昨年度の3月頃からWEB予約システムの導入や、朝夕1時間の開館延長、自動券売機の導入といった様々な取組を、平和文化センターと協力してできる限り対策してきた。その結果、お盆時期でも30分や1時間の行列が何日かあったぐらいでかなり減ったため、対策の成果が出たと考えている。

一方、館内はスペースが限られるため非常に混雑しており、今度はこちらの方が課題になっている。今できることは、入館者が少ない朝夕へなるべく誘導しているのと、本日配付している「G7広島サミットを振り返るとともに被爆の実相を学べるマップ」を作って他の平和施設も回ってもらおうとしている。平和記念資料館だけではなく、本川小学校や袋町小学校の平和記念資料館、通信病院外来棟平和記念資料館、平和記念公園周辺にたくさんある慰霊碑なども回り、被爆の実相についてさらに深めてもらいたい。また、ピースパズルは、混雑対策の一つにもなると思うので、こういう面でもより連携してやっていけたらと思う。

長崎との連携も素晴らしい取組だ。平和では以前から長崎と連携してきたが、今までにない部分で、

幅広く連携していくのは良いと思う。

(事務局)

いろいろ御意見ありがとうございました。質問にいくつかお答えしたい。

まず、渡部委員から、カープやドラゴンフライズ、広島交響楽団など、文化やスポーツでも連携先としていろいろ考えられるのではないかと意見をいただいた。Instagram の共同投稿は今年初めて行ったので、それがどういう状態になるのか検証してみたいと思っている。サンフレッチェ広島はフォロワーが多く、ピースツーリズムは現在 11,000 人くらいだが、フォロワーが多いアカウントと共同投稿すると、それぞれにフォロワーが増えるのではないかと考え投稿してみた。おそらくそういう効果もありフォロワーが増えていると思うが、今後、提案のあったカープやドラゴンフライズ、広島交響楽団などとも、そういう投稿ができるかチャレンジしてみようと思う。

また、フォトコンテストの写真を、デジタルサイネージ等で流してはどうかという意見について、例えば、広島駅の観光案内所にあるスクリーンや、その近くにあるデジタルサイネージで動画を流している。また、前回の懇談会でも報告したが、東京にある TAU の外壁にあるスクリーンや、エディオンピースウイング広島の外にあるビジョンでも流したりして、費用のかからないところで調整して動画を流してもらっているので、ピースツーリズムに注目していただけるような画像や動画があれば、引き続き流していきたい。

続いて、畝崎委員から、ジャーナリスト研修を今後も 1 回だけではなく何回かやってほしいという意見について、できるかどうかはあるが、関係部署に情報共有していきたい。

次に、大芝委員から、人との接触が増えており、コミュニケーションを取っていくような企画が大事だという意見をいただいたので、そのような視点を取り入れていきたい。

ジャーナリスト研修の参加者数は、令和 5 年度は 10 名だった。第 1 回が平成 14 年度に始まり、その時は 2 名だったようだ。毎年、大体 10 名前後ぐらい参加されている。

それから、和歌山大学からの来広が 4 名だったがもう少し来てもらいたいという点について、今回先方から話があったもので大学側の事情もあったと思うが、今後、もしそういう機会があれば、ぜひ日本の大学生にも来てくださいと声掛けをしていきたい。

続いて、橋村委員からの質問でフォトコンテスト応募者の年代についてデータは取っていないが、参考として Instagram のフォロワーは 25 歳から 64 歳の方が全体の約 85% で、若い方から 60 代の方まで幅広く御覧いただいている。

また、更新したリーフレットに QR コードをつけてはどうかという意見について、海外では SDGs の関係でペーパーレスが進んでいるそうなので、その視点は持っている。例えば、ポスターなどを作る際には、細かくピースリズムのことは書かず QR コードだけを載せたり、「詳しくはこちらを御覧ください」という案内をしている。昨年度、広島電鉄株式会社に協力をお願いして、広電宮島口駅の券売機周辺に QR コードを表示してもらった。宮島に行かれる方は多いので、そういう所で券を買う時に、QR コードが目に入るようにといった取組もしている。そういった視点で、QR コードもどんどん活用したい。

そして、ピースパズルの参加者数は、令和 4 年度が 532 名、令和 5 年度が 723 名で徐々に増えている。

次に、瑠璃委員からの、広島・長崎連携観光キャンペーンに平和への学びを取り入れてはどうかという意見について、来年度は周遊促進のために平和学習を取り入れたメニューを実施することにしており、平和の学びを入口としてやっていきたいと思う。

それから、ジャーナリスト研修の結果をWEBサイトに掲載できないかについては、考えてみたいと思う。また、国外のジャーナリスト研修は、今のところ実施していない。海外に情報発信していく上で、問い合わせがあった時にはその準備があるかについては、おもてなしにも繋がると思うので、そういう視点も取り入れていきたいと思っている。

(中田委員)

いろいろ御意見いただきありがとうございます。観光の担当としては、今日頂いた意見をしっかり頭に入れながら、今後この事業を展開していきたいと思っている。

先日、先程紹介した長崎との連携観光キャンペーンで久しぶりに長崎市へ行き、長崎原爆資料館やグラバー園と、出島は今再現工事にかかなりお金を掛けて進めているというのと、10月にサッカースタジアムが民間の資金をかかなり加えて整備されるといった、活発な動きがあるということを見させていただいた。その中で思ったのは、広島に来てもらった方に被爆の実相をしっかり伝えたいという思いは当然あるが、我々観光としては、それを足がかりにしながらも、それだけでは観光としては寂しい部分もあり、プラスアルファがないとなかなか呼び込めないということだ。市長からも以前から事あるごとに、被爆前も広島の歴史があり、それをどう伝えていくかは観光の視点として大事だという使命を承っている。グラバー園や出島には、被爆前の長崎市の中世、近世からの歴史があり、長崎に行けばそういうものを短距離で移動して見ることができるが、広島で長崎にないものと言えば城がある。昨年、広島城の入館者数がおそらく過去最高になったということで関係者に話を聞くと、インバウンドのお客様が来られると。私も街中を歩いている時に、広島城はどこかと外国人の方から2、3回尋ねられたことがある。被爆の歴史もあるが、広島城がいわゆる中四国の中心都市だったことから始まり、その流れで大本営が置かれるほどの大都市になって、それ故に被爆の標的となったつながりも含めて来られた方にアピールして、広島、長崎の被爆前の歴史も、連なる歴史の中で被爆都市となったことも長崎市と一緒にしっかり伝えられるような仕組み作りに取り組んでいきたい。

また、広島では来年、中央図書館が広島駅前のエールエールA館に移転し、リニューアルオープンする。広島はインバウンドも含めて旅行者のおそらく6割近くが広島空港ではなく広島駅から散策される。リニューアルオープンする図書館には郷土資料館のサテライトも入ることになっているので、広島の被爆も含めた歴史を知ってもらい、被爆の実相を皆さんに伝えるような仕掛けをしっかりと考えていきたいと思うので、引き続きよろしくお願ひしたい。

(原田座長)

ジャーナリスト研修で、私がこの度お付き合いしたのが、信濃毎日新聞と河北新報社で、相当突っ込んだ話をしたのでどこまで書くかわからないが、シリーズでやる予定ということなので期待している。研修が始まった頃は、先程の話のとおり参加者が非常に少なかった。平和首長会議でも職員研修をやってきたが、最初の頃は2、3都市で、これで本当に研修になるのかと思ったが、今は少し増えたと思う。そういった使い方も、十分情報発信できると思うので、引き続き頑張ってください。

(渡部委員)

先程のQRコードについて、名刺サイズのカードにQRコードを付けることができる。それを私の方ではやっており、世界を回っていただく被爆者の方には必ずお作りしている。カードにQRコードを入れて、名刺代わりに渡せば情報が届く。ハガキサイズでも作るが、持ち帰りたくなるデザインの絵はが

きにQRコードをつけると、必ず持って帰ってもらえる。そうすると、持ち帰った人がQRコードを広げてくれるので、この活用はすごく大事で、良いデザインであることが大事だ。フリーでいろいろな所に置けば、良い情報発信になるので、ぜひいろいろな形で検討いただければと思う。

中田委員が発言された広島城について、私は必ず被爆樹木を案内し、中国軍管区司令部跡を案内し、それから広島城に行く。天守の上からは広島のみちがよく見える。やはり組み合わせることが大事だと、先程の話を聞きながら思った。それから、ジャパネットたかたがサッカー場を整備したが、プロバスケットボールの体育館も整備している。それを11月に市民に提供し、フェスのようなイベントをやる。こういう企業との連携を、これから私達は長崎から学んでいけば良いと思う。それから、長崎が若者のダボス会議をやったが、それをバックアップしたのは長崎の企業である。広島企業にもそういう形で平和と観光と両方に関わっていただきたい。

【その他の平和に関する本市の事業についての情報共有について事務局から説明】

(原田座長)

現在の状況について説明いただいたが、平和記念資料館はキャパシティの問題がある。入口の混雑対策はもちろん必要だが、問題は中に入ってからだ。3階のエスカレーターの上や、本館入口の所など、もう絶対的にあれ以上は無理だ。今の状態ではとても無理だと思う。だから、どういう恰好で被爆建造物を回遊できるようにし、旅行者を分散していくかを早急に考えなければいけない。

私は長年、旧広島陸軍被服支廠保存の問題に取り組んできて、最初は壊すところからスタートだったが、国の重要文化財になった。あれだけの価値のあるものをしっかりと活用することを考えて、4棟のうち1棟は、市がいくらか負担をして譲渡されるそうだが、肝心の他の3棟が今のところどういう議論をしているのかよく分からない。やはり早急にしなければいけないと思う。旧広島陸軍被服支廠をどう使うか、市がある程度力を入れて次の段階へ踏み込んでいくかしないかと思う。

ここからは、皆さんからいろいろな意見を受けていきたい。この懇談会の今後のあり方、来年度以降どういう形で進めていくかについて、皆さんの意見があればそれを受けて前向きに進めていきたいと考えている。

この懇談会で最初に取り組んだのは本川小学校だったが、土曜日曜の休館が大きな問題になった。その時は平和記念資料館本館が改築工事に入っており、平和記念資料館と教育委員会との連携が良くなかった。それぞれでやっているからそれはやはり問題だということから、教育委員会と市民局で議論を重ねて、市民局の方で引き受けた。引き受けた以上は、平和記念資料館の附属施設として条例改正をして作っていけば良いのではないかという議論をしたことがあった。本川小学校もいろいろな悩みがあった様で、やはり学校の中に不特定多数の人が入ることになると、治安の問題や騒音なども含めてどうするかという議論もあったのだろうが、当時の校長先生もそのことについて非常に理解を示されて、被爆建造物として皆さんに見ていただく方が良いのではないかということになり、土日開館が始まって今日に至っている。袋町小学校も今の資料館を残す時に、ちょうど私は現役の頃だったが、教育委員会が非常に抵抗した。抵抗したというのは、今の建物を見てもらったら分かるが、真ん中に資料館が入って、今、北館と南館の間が空いている。ああいう形しかできないということで、教育委員会は抵抗があったのだが、そこは乗り越えてやった。今になってみれば、本川と袋町が大きな役割を果たしていると思う。

また、私は東日本大震災の震災遺構を残すことについてアドバイスしてきたが、向こうの方によるとすごくインパクトがあるので、こちらとしては一生懸命残してきたつもりだが、「こんな残し方がある

のか。」というのが彼らにとっては指針になったのではないかと思う。特に宮城県石巻市の大川小学校と門脇小学校は、ああいう形で残してくれたので非常に良いことではあるが、向こうの話では最近少し入館者の数が減ってきたので、そこをどういう形でリカバーしていけば良いか、ピースツーリズムの意見もぜひ聞きたいということなので、その辺りに取り組んでいけば良いかと思う。

来年度の事業、被爆 80 周年に対する意見もあるだろうし、そこへどうつなげていくかということも含めて、何かの参考として発言いただければと思う。

もう一つ、先程も話があったが、広島城の地下の中国軍管区司令部跡を今からどのように進めていこうとしているのかが見えない。緑政課がやりかけたのだが、やはり自分の所の財産ではないからやりにくい。だから、文化財的な価値、あるいは観光的な価値、あるいは平和的な問題からどう取り組んでいくか。危惧しているのはもう潰れてしまうのではないかという気がしているので、これも早急に対応していく必要があると思う。

(渡部委員)

まず、中国軍管区司令部跡について、以前は鍵を開けて中に入れて、すごくいろいろなものを感じる空間だった。以前は、岡ヨシエさんというたった 1 人生き延びていらした方がお話もされていたし、いろいろな意味であそこは残した方が良いと思う。あのままではどんどん劣化が進むと思うが、同様の施設が長崎ではリニューアルされている。司令部で防空壕だった所が、中に入れるようになっていく。やはり中に入って、様子が見える様にする。広島市の姿勢として、これからきちんといろいろなものを記録のために残していく、それをスタートさせる年。被爆 80 年から本格的に重要な施設の整備をスタートさせるというのはあると思う。それと、本川小学校と袋町小学校の平和記念資料館、そして逓信病院外来棟平和記念資料館は平和記念資料館の附属施設になる予定。それで、平和文化センターで何度もその整備をお願いしているが、整備が進んでおらず、トイレも自転車置き場もないという状況が続いている。だから本日配付されたマップもだが、どうやって回るかが問題だ。交通手段はどうやって確保するか。徒歩でなければピースクルか。ピースクルはどうやって借りるのか。自転車の駐輪場も、トイレもない。そういうことが全部抜けていると、いくらマップを観光客に配っても、行くことができない。資料館にしたのであれば、その機能を果たせるような整備を被爆 80 年からきちんとやる。そう見える姿勢が必要だと思う。

それから、平和記念資料館は確かに入館の行列解消だけで、実際に遺品に向き合ってじっくりと考える施設ではなくなっている。それで良いのか、それをどうやって解消してより良いものにしていくのかという議論は、全然スタートしていない。行列をなくすことで終わったとっていて、非常に残念だ。

いくつか資料館になっている所を回る方法や、旧広島陸軍被服支廠をどのように使うかというものもあるが、もう一つ、平和記念資料館本館の充実、つまり面積を広げるという発想があっても良いと思うが、これについては皆無である。おそらく国際会議場は建て替えの時期に入っていると思う。建物としていろいろな所で問題が出ている。上に上げるしかないが、そうすると本館のすぐそばにスペースができる。そうしたら、ゆったりと資料展示ができると同時に、年代に合わせた資料の見せ方もできるのではないか。全ての年代の方が一つの資料を見ているが、それぞれ理解度があるということをきちんと考えることはこれからすごく大事だ。広島市が、どうすればこの被爆の実相を国内外の皆さんに伝えられるかを考えていくという姿勢を見せる始まりが 80 年ではないかと思うので、ぜひ検討いただきたい。

(畝崎委員)

昨年の平和記念資料館の行列と館内の混雑と二重で、皆さんも入館者の方も苦労されたと思うが、今年3月に広島市がよく動いてくれたと感謝している。二つのうち、行列がなくなったことは画期的だ。そして、朝夕に1時間ずつ開館延長したことで、外国の方へも含めて、広島市の姿勢を示すことができたと思う。私は、その時間に人が行かないのではないかと、なかなか知られないのではないかと考えていたが、旅行関係者では、随分多くの方が知っている。早朝又は夕方もしっかり見られる時間帯があり、それを提案したということは、とてもポジティブなイメージとして伝わっていると思う。

それで、今後、館内をどうするかについて、私達の会でよく話し合うのだが、修学旅行生と一般の方が一緒になる時が大変になる。そこで一つの案として、修学旅行生向けのルートを作ることを提案したい。例えば、入る時はみんな一緒に、その後、修学旅行生は本館に入らず、すぐ東館に入ってもらおう。そして、東館見学後に、例えば地下や1階のフリースペースなどを修学旅行生、18歳以下の方の向けの展示にする。その際に、今の本館の展示を減らすのではなく、学生向けに適当と思われる展示を新設した展示場所で行う。そういう一般と違うルートを提供することで、学生に向けた提案ができる。現状では、どうしても一般客と修学旅行生の二つのグループが一緒になると、あまり外で待たせてはいけなく、中に入ってもらいたいと思うので、本館の入口で混雑ができる。今、混雑解消のための検討をしていると思うが、私達は海外の方を中心に多くの声を持っているので、意見を聞いていただけたらありがたい。

もう一つ、私は現代美術館がもったいないと思う。あそこは今めいぷる〜ぷが1時間に1本ある。もう少し人が来るようになったら、また30分に1本に戻してくれるかもしれない。しかし、今、外国人にも日本人にも、現代美術館に何を見に行くかと聞いた時に、何も浮かばない人が多いのではないかと考える。私は現代美術館には二つ大きな財産があると思っている。一つは、草間彌生さんの「The Man」というソフトスカルプチュアである。草間彌生さんの画集のなかには、「広島市現代美術館蔵 The Man」は、草間彌生さんの代表作の一つとして書いてあるものもある。そういう作品を持っているのに、年に数回出るか出ないかというのはもったいない。草間彌生さんの人気は一時的なものではない。普遍的な美と問いかけがある。4日前にも直島に行ってきたが、海外の人は直島の美術館にどんどん行っている。そういう中で、現代美術館はそんな素晴らしい作品を持っているので、いつもこうした声をあげている。

もう一つはイッセイミヤケさんである。ピースツーリズムではこちらの方が本命かもしれない。彼は、1990年に現代美術館の第1回ヒロシマ賞を受賞している。そのイッセイミヤケさんが、2009年7月13日のニューヨークタイムズに「A flash of memory」という寄稿をされている。オバマ大統領の発言に刺激を受けて、初めて自分が被爆者であることを人に知らせたいと思ったと。それまでは一切言っていなかったそうである。海外で、イッセイミヤケさんは単なる服飾デザイナーではなく、哲学者として尊敬されている。常設で一つの部屋に彼の作品と思いを展示できたら、現代美術館のハイライトとなりうると考える。草間彌生さんと、イッセイミヤケさん。もしこの二人の作品が、それぞれの部屋で常設展示されているならば、国内外の人々の注目を得ると考える。

(大芝委員)

混雑対策は、随分努力されて良かったと思っている。去年は非常に大変だった。改めてそれだけの需要があるのだと肝に命じて、我々も取り組む必要があると思う。

今の話のとおり、いろいろな工夫をしようと思うと、もっとみんなに伝えていきたいものがどんどん増えていくのでそういうことにも力を入れて、やはりハードの部分、建物の話についてそろそろ問題提起をしても良いのではないかと。簡単に決まるような話ではないが、「既存の中で」と考えずに、今からまた5年、10年以上かかるかもしれないが、建物の単なる増築ではなく、第二資料館というようなカテゴ

リーを作るくらいのことは必要で、それだけのニーズもお見せするものもあると思うので、ハードの部分も取り組んでいくように問題提起をしてはどうか。ハードとなると、同じ場所とは限らないので、旧広島陸軍被服支廠の建物の利用を考えても、そこをどう結ぶか足の部分も考える必要があるが、いずれにしても、第二資料館というような形で打ち上げて、何年かかるかというところはある。

二番目は、原田座長のお話を聞いて非常に共感したが、広島ではいろいろな形で残す努力をしてきた。他の町からそれを知りたいというニーズが非常に高い。被爆地や戦災地があり、それから、今、非常に不幸ではあるが、被災地がどんどん増えている。石巻市の大川小学校は大変な問題を抱えながらも、広島でどうやって残していったか、その時どんな大変さがあったかというのは伝えてほしいと思う。ハードが一番目だとすると、二番目はソフトの部分で、もっと充実していても良いと思う。ソフトというのは、被爆の記憶継承だけではなく、それをどうやって残していくかについて充実していく必要があるだろう。いろいろな形の残し方があり、いろいろな媒体を使うこともあるが、被爆地、戦災地、被災地などで年に1度くらい集まり、議論やいろいろな相談ができるような形を設けても良いのではないかと。

それから三番目に、先程モデルルートやQRコード、そして「点から線、そして面」という話もあったので、各スポットでQRコードにかざすと、その慰霊碑などと関連性の高い、複数のものが出るようにしてほしい。そうすれば、個々人が自分の関心に従って次の所に行ける。例えば、原爆の子の像から赤十字原爆病院へ行ったり、小学生の子が幟町小学校に行ってみたり、あるいは、デザインの方で彫刻に結び付けて行く。おそらく個々人によって作り上げるので、こちらはそのためのメニューを提示している。QRコードを上手く使えば、それぞれがそれぞれのストーリーやテーマで追っていくようになり、結果として点から線、線から面へと繋がるのではないかと期待している。そういうことをやっていくと、必ずしも資料館だけに人が集まらなくなる。まち全体が広島の資料館だと思うので、そういう使い方もできるのではないかと。

それから、VRゴーグルの話で、これは頂いたものなのでありがたいのだが、言語対応が西洋語ばかりなので、人によってはそのことを言う人がいるだろうなと思った。

(橋村委員)

平和記念資料館の混雑対策については、私も仕事柄いろいろな形で教育旅行担当者に会うが、すごく助かっていると聞いている。今後またいろいろな問題が発生すると思うし、今、広島市も教育旅行をもっと増やそうとしているということは、インバウンドも増えているが教育旅行も増えていく可能性が十分あるので、ぜひこれは継続的にやっていただきたい。

それともう一つは、来年被爆80周年ということで、世代交代の時期かと思ったりもする。被爆を体験した方が少なくなってきた、今AI等でも対応していただいている。先程原田座長が言われたように、旧広島陸軍被服支廠とか中国軍管区司令部跡など、今度はそういう目で訴えるものを残すべきではないか。それを残して、実際に目で見ていただくことで訴える。実際に体験された方はいないが、その状況を見て、継承者の方がそこで感じたことを伝えていく。やはりそこに見るものがないと言葉ではなかなか伝わってこないから、時間はかかるだろうが、早めに修復をしながら、実際そこに入れて見られて、話を聞きそこでいろいろ感じるということが、映像を見るよりももっとインパクトがあると思うので、ピースツーリズムの部署と関係ないかもしれないが、これは早急にするべきだと思う。

(瑠璃委員)

平和記念資料館の混雑対策について、本当に評価されるべきだと思う。特に、災害時の安全対策の

面からもなるべく動きをスムーズにするのは大事だ。また、高齢者やモビリティの配慮が必要な方々に対して、資料館東館南側の入口を開けて、車やタクシーとの連携を改善することは、国連の障害者権利条約にもある合理的配慮の面からも素晴らしい。

ところでさらに、回遊性をどうやって高めていくかだが、一つ気になるのは、先程紹介のあった「G7広島サミットを振り返るとともに被爆の実相を学べるルートマップ」について、絵と絵の印象、そして文言には、人の動きへ社会心理的に影響を与える部分があるので、その観点から考えを述べたい。「被爆の実相を**これで学べる**」と言われると、そのマップにあるルートだけ動けば良いという印象を与えかねない。私は、SNSで観光者の動きなどを研究してきたが、ある観光者が広島を訪れる時に、マップを使って「ラクして平和をちょい押さえ」という言葉を使っていた。楽しんでちょこっと見れば大体ポイントが押さえられる、という勘違いが起こっているということだ。こうなると、ピースツーリズムの圏内が矮小化していき、限定的になる。それで重要な見どころを押さえられるのであれば、連泊する必要がないということになり、リピーターも減少する恐れがある。そこで、「被爆の実相」という観念と「それに関わる場所性」というものを、平和記念公園内に限定せずに放射状に広げていくことが必要ではないか。回遊性を広げていく際に、どうやって人を動かすかということになるのだが、この平和を冠にするピースツーリズムの本来の意義を満たすために、このマップからどう見どころを広げていくか情報を得るQRコードでなどの仕組みが必要だと思う。特にマップを作る時には、文言に留意して人を動かすものを作っていくことが今後さらに重要になると思う。それにより、特別感とか、行けば行くほど自分が広島、長崎について一種のプロになるような、親近感を感じ、内輪感を得ていくことができる。すると、少々値段が張っても、上質なサービスを求めて滞在日数を増やすという、ちょい歩きでは楽しめない、深掘りしたい広島を求める観光者が増えると思う。

それから、このマップは素晴らしいが、本川小学校からもう少し供養塔や平和の鐘などにも行っていただきたい。その後は、土橋や十日市の辺り、復興のプロセスの面影を残すような街並みを見ることによって、広島をさらに楽しむことができる。北に行って例えば工兵橋の辺りも歩いてもらえば、被爆前の広島を学ぶことができる。そのような、マップも面白いのではないかと思う。

もう一つ、中長期的なピースツーリズムについて、意見を述べたい。平和記念資料館や原爆死没者追悼平和祈念館などは、知識と情報を得る施設ということで中核的な訪問施設になると思う。これに加えて、国際平和文化都市広島の文化に触れる施設や場所をルートに通過地点として盛り込んでいくことで、広がり生まれるのではないか。図書館や平和に関する作品を展示する施設、ギャラリーやカフェ、音楽・メディア関係の施設、情報資料センター、NPOの事務所、教育施設など、ここに行けば情報が得られるという施設がいろいろあるのに、全体像が知られていないし、観光客はそんな情報を容易く得られない。余談だが、上野の科学博物館などはものすごい人数の来館者があり、入館料もかなり取っている。つまり、広島でも科学博物館や交通博物館などを今後充実させながら、そこに例えば人新生のコーナーを作る。広島でも、原爆の被害や核被害、復興で何ができたかというような、資料館などにはない展示をすることにより、様々な文化施設のルートを作ることができるのではないか。そうすれば、家族連れで訪れ、入館料を払ってでも、被爆について継承しながら広島の文化を学ぶことができる。広島市全体でピースツーリズムを盛り上げていくような仕組みができるのではないか。そこでは、過去のことを学びながら、被爆の実相を現代の生活、環境などの問題とも絡めながら学ぶことができるので、教育効果があり、広島市内の学校などとの連携も考えられる。そういった中長期的な計画を、ピースツーリズムを通して観光政策部で盛り立ててもらえればありがたい。

それから、資料や情報の収集というのがこれから大事になると思う。訪問した人々は本当に何を楽し

んで、どこに行ったのか。自分の意見や提案が今後の観光に反映できるかもしれないという可能性を訪問者に楽しんでいただくことも、ピースツーリズムをさらに魅力的にするのではないかと。これまでは知人や特定のグループだけに意見を伺うことが多かったが、2019年に実施したように、さらに広く訪問者の声を吸い上げていく。それを、将来の中長期的なピースツーリズムの計画・企画に反映できれば良い。それほど大きな資金は必要ない。先程意見が出たようなQRコードを使って、それを例えば飲食店のメニューに載せたり、マップに印刷したり、公共交通システムのどこかにシールを貼っておくだけでも情報を簡単に収集することができるので、どのような思考・ニーズがあるのか、何が回遊性を後押ししているのか等、大規模な訪問者対象の調査を検討していただければありがたい。

(山藤委員)

混雑対策については様々な御意見をいただき、重要課題として引き続き取り組んでいきたい。中長期的な視点についても考えていないわけではなく、工事計画などの話になると長期の時間がかかる。当面は、今入館者が多いことをなんとかしなければならぬので、いただいた意見を参考に考えていきたいと思う。

旧広島陸軍被服支廠について、今年度から始まった安全対策を当面行い、今後どのようにしていくかはこれから検討することになるが、総事業費が29億5000万。国の重要文化財に指定されたので、国が半分の14.7億、残りを県と市で7.5億ずつ負担するというところで動き出した。この財源が非常に大きく、広島市だけで賄うのは難しいところもあるので、国の支援も得ながらやっていけたらと思っている。

もう一つ、被爆建物の広島大学旧理学部1号館は、広島大学と広島市立大学、広島市と広島平和文化センターの4者で「広島平和研究教育機構」を今年設立して、ソフト面では動き始めて、共同研究や教育についても、海外の若手研究員を入れることもスタートし、これから充実していきたいと思っている。並行してハード面の整備も、今年8月に「平和に関する知の拠点の整備に伴う基本実施設計業務」の業者が決まり、令和8年度までは設計、9年度から工事という予定で動き出している。旧広島陸軍被服支廠も安全工事に3年かかるが、できてくれば中身が完成しなくても見てもらえると思う。中に入っただけが大事なことで、短期的にはそういうところを活用しながら、被爆80年を節目にまた頑張っていきたい。

(中田委員)

平和のこともしっかり絡めながら考えていくという姿勢は貫きながら、今日いただいた意見をきちんとまとめて、各所管へ伝えていきたいと思う。

その中で一つ印象に残ったのは、先ほど渡部委員が言われた、昔は入れた中国軍管区司令部跡に今は入れなくなったということについて、以前、レストハウスの改修をして、地下をどうするかという議論になった。昔はヘルメットをかぶって10人くらいしか入れない難しい中で、増改築するのであれば、例えば車椅子の人にも見てもらえるような施設にしようということで改修をして、今皆さんに入っただけになった。確かに中に入るのと入らないのでは随分違うということ、私も身をもって体験したので、中国軍管区司令部跡は緑政課が考えるところではあるが、レストハウスの改修の事例等も含めて伝えていきたいと考えている。

(原田座長)

いろいろ皆さんから意見をいただき、今後の課題がどんどん出てきて、どこからどういう風に整理を

していくかというのは、大変大きな課題になるのではないかと思う。

それで、旧広島陸軍被服支廠は3年かけて建物の整備をし、中身の問題についてはその先になるということだが、果たしてそれで良いのかというのは気になるところだ。平和記念資料館の混雑対策や回遊性の問題、それらをトータルで考えていくなれば、県の行動は悠長過ぎるのではという気がする。私は旧広島陸軍被服支廠にずっと関わってきたが、今からどうするか考えるのは本当に大変だと思う。1棟が約100m、4棟で400mの施設を管理するので、そこで何をどう整備をするかが大きな問題だが、それを管理するための財源の話もあり、それからその管理そのものの体制のこともある。今考えないといけないのは、どういう職員をそこに配置するのか。そして、そこでどういう仕事をするのか。学芸員も、司書もいるだろう。そういう要請などをいつやるかとなると、おそらく10年以上かかるのではないか。それで良いのかという気がする。元々あそこはいらないというところからスタートしたので、非常に陰しい行動を強いられてきたというのはあるが、やはりできるだけ早く方向付けをすることが求められると思う。

その他の話から申し上げると、新規ルートの検討についてかつていろいろな議論をしてきたが、幟町小学校の佐々木禎子のコーナー。あそこも地元の町内会長さんがずっと関わっているが、あくまでも学校内の施設なので、今のところ毎週金曜日の午前中だけ予約制で入っていただいている。もったいないのは、幟町小学校の前に国の重要文化財の世界平和記念聖堂がある。そことの関係もあるだろうし、そこをどういう形でルートを作っていくのが良いか。それから、かつて大芝委員がおっしゃられたアニメルート、そういう分野に広げていくのが必要なのではないかと思う。アニメの関係で広島市内にロケ地などいろいろあるし、そういうところをくっつけて続けていくことが必要かと思う。

それから、最近の例で言うと、ユニバーサルツーリズム、アウトドアツーリズムというものがあり、長野県が主体的に動いているようだが、アウトドアの車椅子の補助金を出して、助成をする制度も作っているようなので、これも一つの参考になると思う。

それから、共通割引券、乗車券と入場券等をセットにすることについて、かつてこの場でも議論があったが、現代美術館の建て替えの時期にかかったので途中で頓挫し、そのままになっている。私は旅が好きであちこちに行くが、どこへ行っても共通割引券がある。そういうものを作ることも必要だと思うし、それがルートの開拓になればより身近になっていくと思う。皆さんもおっしゃったように、一つ一つ行動に起こすということを見える化し、具体的にアピールしていく必要がある。

もう一つ、これまでの議論の中で課題として残っているのが、拠点施設をどうするか。つまり、市民と来訪者との接点をどう繋げていくのか。大きなものでなくても良いから、ちょっと椅子とテーブルと、できればトイレが近い所があれば、使えるのではないか。例えば、国際会議場の隅の方でも良いし、そういうものを掲げることによって、市民との交流が広がると思う。そういうことも今後の課題として進めていかなければと思う。

(瑠璃委員)

2023年5月から24年8月まで、広島市佐伯区の11公民館で被爆者の森富茂雄さんの「消えた町 記憶をたどり」という原画展を巡回展示した。この時非常に反響があり、特に原田座長のメッセージの中でピースツーリズムについて触れていただき、片渕須直監督の「この世界の片隅に」にも触れてあったことで、「ピースツーリズムについてもっと知りたい」というような意見がたくさんあった。同様の巡回展示会を、今度は中区の4公民館で11月から行うので、その時にピースツーリズムについての説明を何か行うようなイベント、もしくはチラシの配布などをしたいと思う。

もう一つは、2024年12月3日から25年2月28日まで、「被爆80周年広島長崎原爆平和展」を、広島平和記念資料館、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館と一緒に、スロベニア国のマリボル民族解放博物館で行う。広島大学平和センターもこれに関わっている。展示会は、実はスロベニアのピルツ大統領が自ら開幕したいということで、経済産業省、文部科学省の大臣などが参加されることになっている。広島の松井市長、長崎の鈴木市長からのメッセージの他、被爆者の方々のメッセージを録画してお渡ししたいと考えている。広島からは、平和記念資料館の館長と被爆体験の証言者1名の他、平和記念資料館啓発課の職員が現地へ行く。私は企画運営で関わっているので随行する。すでにスロベニアの7都市が平和首長会議に加盟しているが、この秋、新たに広島との特に観光交流に関心が高いスロヴェニ・グラデツという都市が加盟する。スロベニアは森や川が非常に美しく、アウトドアツーリズムに関心が高く、平和ツーリズムにも関心が高いということで、連携したプロジェクトが考えられる。委員の皆様から次の機会にでも、意見を伺えればと思うので、よろしく願いたい。

(渡部委員)

今年の8月6日の平和記念式典に私は行けなかったが、今年の式典のあり方が本当に平和的だったかどうか検証した方が良いのではないかと思っている。私の娘は長崎の被爆者の方を案内したが、被爆者の方がへとへとになったようだ。炎天下に歩いてあそこまで行き、手荷物検査で並ばなければいけない。具合が悪くなる人もおられた。おそらく被爆者席は相当空いていたのではないかと思う。

それから、もう一つ残念な話を聞いた。たくさんの方が8月6日の平和記念式典に参加したいと思って来ておられたが、あの状況の中で皆さん引き返されたそうで、本当に残念に思った。海外から来られた方は、生涯に一度の方がたくさんいらっしゃる。どんな残念な思いをして、引き返して行かれたか。いろいろな問題があることは承知しているが、被爆80年の式典は、平和的で、かつ慰霊を中心とした祭典で、あの炎天下に被爆者も参加できるようなものにしていくために何ができるかは、官民あげて考えていく。そういう意味では、もう一度平和記念式典のあり方を考えるチャンスは私達はもらったのではないか。恐らく今日の平和記念式典の形は、スタートからその形ではなかったと思う。これまで変遷があったと思うが、それを一回洗い流してみて、今の在り方が本当に平和的な式典になっているかどうか、官民挙げて市民一人一人が考えていく時ではないかと感じたので、ぜひ皆様と共に一緒に考えていきたいと思い、提案させていただいた。

(事務局)

今回頂いた皆様からの貴重な意見については、今後の事業推進に当たり参考とさせていただきたい。